

# 原子力発電機器から宇宙ロケット部品まで対応 株式会社東邦工業社

## 会社概要

- 創 立 昭和29年4月
- 資 本 金 10,000千円
- 従 業 員 26人
- 所 在 地 高萩市上手綱朝山3641-15
- T E L 0293-24-2266
- F A X 0293-24-2267
- E-mail toho@key.ocn.ne.jp
- U R L <http://www.tohomill.com>
- 事業内容 原子力・火力発電機器、航空・宇宙機器、半導体・液晶関連製造機器、医療機器の大型機械の精密機械加工



今回は、大型機械加工設備による、原子力・火力・水力発電等のインフラ関連部品から航空・宇宙関連部品等まで、幅広い製品を製造している株式会社東邦工業社を訪問し、副社長の中島知彦氏にお話を伺った。



火力発電関係製品

33年に神奈川県川崎工場、昭和43年に平塚市に治具ボーラー部門を設立し、昭和47年に、大型NCフライスを主体とした伊勢原工場を設立した。その後、大型設備を導入するに当たって、既存の工場には、スペースや周辺環境への配慮により設置が難しくなってきたということもあり、知人の紹介で、平成2年に上手綱工業団地内に高萩工場を新設した。平成18年には、事業の再構築を行い、高萩市に工場と本社を集約し、現在に至っている。

同社は、弱電関係の量産部品などで業容を拡大していたが、バブル崩壊時の経済環境の激変に伴う受注減を契機として、「量産体制」から「非量産・多品種少量生産体制」への大幅な転換を図った。それが、現在の当社の強みである高難度の「大型機械加工」である。今でこそ軌道に乗ってはいるものの、生産体制を変更した当初は、大変苦勞も多かった。しかし、今としてみるとその苦勞も、貴重な「授業料」としての経験であり、それが現在の事業の礎になっていると中島副社長は話す。

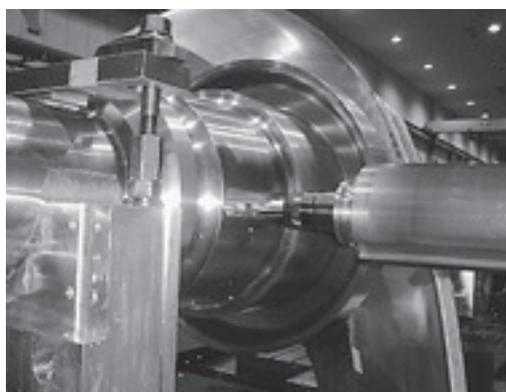
また、同社は、原子力発電から医療機器関連、さ

## 事業概要

同社は、昭和29年4月、東京都大田区に工作機械部品及び治具金型の製作を主要な事業として、有限会社東邦工業所として設立した。その後、昭和

らには航空機や宇宙ロケットなど最先端の仕事に関わっていることが大きな特徴である。航空・宇宙関連業種は、現在のトレンドとして様々な企業が受注獲得にチャレンジしているが、特に、航空関係の仕事は、機械設備だけ揃えただけでは対応できないノウハウがあると中島副社長は話す。そのノウハウも、20年にわたって、高難度の仕事にチャレンジを続けてきた経験の賜物だと自負する。

また、特定の「親会社」という概念を持っていないことも大きな特色の一つである。1社からの受注については、最大で全体の受注の20%前後となっており、受注の平準化が図られている。さらには、取引先も業界でも最大手のメーカーとの取引がほとんどを占めているなど、当社の高い技術と納期等の対応が、取引先からの高い信頼を得る結果につながっている。これが、現在の厳しい経済環境の中でも、一定の受注を確保している要因でもある。



水力発電関連部品

### 受注活動について

同社は、専属の営業担当者は置いていない。新規の受注は、主に既存の取引先からの紹介を受けた企業が、加工依頼をしてもらうことがほとんどである。さらに、受注に当たっては、発注メーカーの「設計・技術担当者」と、直に顔を合わせての面談することを重視している。メール等では細かいニュアンスが把握できないこともあるが、実際に担当者と顔を合わせて打ち合わせてこそ、図面にはない「設計者の

意図」といった部分についてもやりとりが可能になると考えるためである。時々、面識のない業者が直接工場に訪し、「他では断られてしまったので、なんとかお願いしたい」とスポットで加工依頼することあるが、そのような他社の嫌がる依頼にも誠意をもって対応することを心がけている。自社のPRとしては、自社ホームページを有効に活用し、その内容においても、常に最新の情報を発信している。

### 品質管理について

工場内は、温度による加工誤差がなくなるよう常時温度管理を行っており、また5Sを徹底するなど、品質管理にも重点を置いている。さらに、社員技術の向上のため、各種検定へのチャレンジを推奨しており、フライス盤技能検定や溶接資格他、技術の向上を奨励し、品質の向上に努めている。



工場内風景

### 今後について

平成20年8月にISO9001を取得したが、取引先からの信頼性の向上以上に、その取得する経緯の中で「職域別の担当者」を社内に設置したことは、「社内の組織化」という意味でも、ISO取得の大きなメリットであると話してくれた。また、今後は、環境対応にも力を入れることを検討しており、ISO14001取得も視野にいれている。

これまでは、「高萩という池の中だけで泳いできた」とのことであり、今後についても「拡大路線を目指すのではなく、堅実な経営戦略のもと、従業員一同努力していきたい」と中島副社長は語ってくれた。